

Ⅱ 各学部研究の概要

各学部研究の概要は以下のとおりである。詳細は各学部の教育実践のページを参照していただきたい。

小学部「児童一人一人の願いを生かした授業づくり」

小学部では昨年度「個々の願いを生かした学校生活づくり」というテーマで、全児童の大目標に沿った学校生活づくりとはどういうものになるのか、今までの学校生活づくりと何がどう違うのかを検討してきた。今年度も児童一人一人のカスタムメイドで企画された支援を、どのような活動や場面でどう実施するのかについて継続して研究をする事とし、サブテーマを「児童一人一人の願いを生かした授業づくり」とした。

実践研究では、児童の目標を出発点とした生活単元学習の授業と、既存の朝の会の中に児童の目標を組み込んだ授業の2つの実践を行った。

中学部「生徒一人一人の願いの実現につなげる授業づくり」

中学部では、昨年度より、日々の集団授業の中で生徒の願いの実現を目指して研究に取り組み、“一人の生徒の大目標を核として組み立てた授業の中で、教師が他の生徒の言動も見過ごすことなく捉えて授業を工夫することで、他の生徒の目標や主体的な参加につながる授業となる”という手応えを得た。

今年度は、さらに「生徒が自分の目標を意識し、自ら努力できるようになる」ことをめざし、日々の授業の中での目標設定や評価を大切にすることを確認して研究に取り組んだ。実践研究として取り上げた授業は、学部縦割り編制で行われる「グループ学習」の3授業である。実践にあたっては、各授業時間の生徒のめあての設定や評価に生徒が主体的に関われるように、授業の組み立てや場面設定などを検討した。授業後の振り返りでは、教師の生徒の内面の思いに対する教師の気づきや直観を大切にして話し合い、次時の授業を改善していくというサイクルを繰り返し、授業を積み重ねた。

高等部「自己実現につながる学習内容のあり方」

高等部では、学校生活の中で高等部の生徒全員に対して、生徒一人一人の「したい」「なりたい」という思いを大切にしたり、自己実現につながるようにしたりするためには、個に応じた学習活動を設定するだけでなく、日々の学習活動について見つめ直すことが不可欠であると考え、授業研究に取り組むこととした。2年間の研究のうち、一年次は主に教科学習に焦点を当てて、二年次は作業学習に焦点を当てて取り組むこととした。

昨年度は、コア・カリキュラムの考え方を参考にしながら、各教科等の学習内容を互いにつなげ合い、高等部全体としてのまとまりを持たせた。今年度は、授業研究を通して、生徒の自己実現につながるような作業学習での学習内容のあり方について検討した。その中で、生徒が自分自身の目標について表現し、活動後に振り返るようになるための指導・支援のあり方についても検討した。